

令和4年度 第2回 稲美町地域公共交通活性化協議会 議事概要

開催日時	令和4年6月23日（木）午後3時00分～午後4時50分
開催場所	いきがい創造センター1階ワーキングスペース
出席者	委員13名、事務局3名、オブザーバー2名
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長のあいさつ 3. 委員の選任・委嘱状の交付 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和3年度決算報告について (2) 令和3年度会計監査報告 (3) 稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」の利用状況について (4) 地域内フィーダー系統補助の申請について (5) バス路線について 5. その他 6. 閉会
議事概要	<p>3. 委員の選任・委嘱状の交付 選出母体での役職等が変更により、井上委員が監事、事務局の企画課長 赤松が協議会出納員として役職につくことを承認</p> <p>(1) 令和3年度決算報告について ・別添【資料1】について説明</p> <p>(2) 令和3年度会計監査報告 ・別添【資料2】について監査報告</p> <p style="text-align: center;">(1)(2)について一同異議無し 承認</p> <p>(3) 稲美町デマンド型乗合タクシー「あいのりいなみ」の利用状況について ・別添【資料3】について説明 ・議長「登録者数を増やすことと、登録している方にもっと乗ってもらうように促進することの両方の戦略が必要になってくる。リピーターの追跡をもう少し知っていきたい。また、あいのりの概念が伝わっていない部分もあると思うが、制度周知や利用の方法などの広告で、回覧板や病院での張り紙等が有効なので、そういった伝える手立てを考えることが必要。」 ・委員「コロナ禍で不安の声や利用ができないといった声は届いているのか。」</p>

- ・事務局「そういった声は届いてはいないが、利用を控えている方が多いのではないかと考える。社会実験中の運行は、コロナ禍のピークであったが、令和4年度に入ってから、便数が増えたことや予約がしやすくなったこともあると思うが、月の利用は約100回増加している。コロナが落ち着いている最近の利用は自重する方は減ってきているのではないかと感じている。」
- ・委員「タクシー車両の席はどのようになっているのか。」
- ・事務局「通常のタクシーと同様の座席。運転席のとなりに1名、後部座席に3名のところをコロナ禍の対策として後部座席を2名に減らして、計3名を上限としている。」
- ・議長「しばらく様子見だと思う。大事なのは、予約されたデータをどう扱うか。データの収集とその傾向等をつかみ、協議会で報告してもらうことが活性化に貢献できる。」
- ・委員「帰りの便を利用した際、商業施設等に迎えに来てもらう場合、どこで待ち合わせ場所は分るようになっているのか。」
- ・事務局「利用者は、町内の方で普段からタクシーを利用されている方が多い。大体は目的地の降車地がミーティングポイントになっているとのことである。新規利用者は戸惑うこともあると思う。しかし、予約された方に対して、当日予約時間のいつ頃に迎えに行くかを事業者からコールバックするので、その際にお伝えもできる。」
- ・委員「リピーターは利用の方法をよくわかっているが、新規の利用者を増やすためには、そういった小さな戸惑いをなくしていくことが利用者の増加につながるのではないかと考える。」
- ・議長「商業施設に協力を仰いで、ベンチを置かせてもらう等しているところもあるので、そういうのも効果的である。」
- ・委員「協議会の委員として、利用促進の方法を考えていくときに、提案は事務局がして承認をする立場なのか、こういった場で提案をしていく立場なのか。」
- ・事務局「利用促進は、住民の方が主体のあいのりいなみの利用促進委員会を設けているし、各種団体の行事に制度説明に赴いたり、民生委員に説明をして、各地域の集まりや住民個人に説明をしていただいたりしている。いろいろな立場の方が集まるこういった場でこそ意見が出るので、ご提案があればいただきたい。」
- ・委員「予約をしたが無断で待ち合わせ場所まで来なかった等が問題になっているが、稲美町の場合はどうか。」
- ・事務局「過去に1回乗り遅れのキャンセルがあったが、その他のキャンセルについては、電話で事業者に連絡をしてくれている。事業者からも無断のキャンセルの問題があったとは聞いていない。」

(4) 地域内フィーダー系統補助の申請について

- ・別添【資料4】について説明
- ・事務局「あいのりいなみは、国の運行補助（地域内フィーダー系統補助）の対象になるが、制度のスケジュール上、6月中に申請作業を行う必要がある。申請にあたっては、協議会で作成する生活

交通確保維持改善計画が必要であり、中でも目標値については協議会での協議が求められる。」

- ・議長「“フィーダー”とは支線という意味で、稲美町の主要な公共交通である路線バス（幹線）までのアクセスや、支線間の移動手段として「あいのりいなみ」を運行させるために必要な補助金を申請するという趣旨。申請にあたって、様々な要件があるが、今回決めるのは計画書の中の事業の目標について。今回の案では、1日当たりの利用者数15人以上を目標としており、これをいかに達成するかが課題。そのためには、既存の公共交通との連携や利用促進委員会による乗合率の向上などが大切になってくる。生活交通確保維持改善計画の申請について、この目標値や内容で申請しても良いか意見を求める。」

一同異議無し
承認

- ・議長「引き続き、事務局に申請作業を進めていただく。」

(5) バス路線について

- ・神姫バス 配布資料の説明
 - ・令和5年10月1日から加古川駅～医療センター経由～六甲バスター北路線の休止を検討
 - ・あいのりいなみ等他の輸送モードへの転換も含めて、検討をいただきたい。
- ・町「町内から医療センターへ行くバス路線が無くなってしまうので、出来たらこの協議会の中であいのりいなみを医療センターへ走らせられないかを今後議論いただきたい。あいのりいなみを利用される方からも、医療センターを目的地として欲しい、と多くの要望があるように、それだけの需要があるのを何とかカバーできないかという思いがある。」
- ・議長「エリアを広げすぎると町と事業者の双方に負担が出てくるのでそれをどうするのが課題。」
- ・委員「あいのりいなみで医療センターへ行くことになると、行動自体が変わるので考える必要がある。」
- ・神姫バス「この路線は午前中2往復まで減っているが、もともと午前午後で4往復あった。午後の医療センターから帰れる便もあったが、そこの利用が伸びておらず、利用のない便に関しては無くしてきたという経緯がある。」
- ・議長「加古川医療センターへ向かう手段としていくつかのシナリオを分析するのが大切。」
- ・事務局「公共交通計画の中でも、あいのりいなみの施策を決めている。町内で進めていくが、今後の話として、医療センター等の町外の目的地への設定も引き続き検討していくとしている。現在は町外へは行けない設定だが、区域運行の制限を特例として町外の特定の地点だけ設定できないかという協議が、加古川市や神姫バス、ルミナスタクシー、国との話し合いで進められる

	<p>話かと思うので、進んできたらこの協議会の中で報告させていただく。」</p> <ul style="list-style-type: none">・兵庫陸運部「路線の休止の話が出ている状況なので、町民の方に本当になくなってよいのかを考えてほしい。既存のものを大切にすることを考えて、一度乗ってみてほしいと思う。」 <p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none">・兵庫県バス協会 高齢者運転免許自主返納サポート制度 県民交流バス について説明 <p>6. 閉会</p>
--	--